大規模言語モデルを用いたマルチモーダル検索モデルに基づく 生活支援ロボットによる物体操作

慶應義塾大学大学院 理工学研究科 開放環境科学専攻 是方諒介

概要: Open-Vocabularyな指示文に基づく物体操作

生活支援ロボットにopen-vocabularyな自然言語指示文を与え 対象物体および配置目に関する画像検索に基づき物体操作

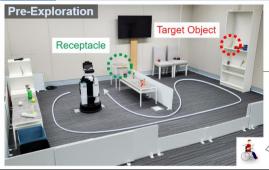
マルチモーダル基盤モデルに基づくSwitching機構を導入し、 新規性 対象物体および配置目標に関する予測を単一モデルで実現

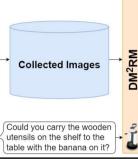
> 大規模環境で構築したデータセットにおいて既存手法を凌駕 ゼロショット転移条件の実機実験でタスク成功率82%を達成

関連研究:画像検索による物体操作を扱う手法は少数

MultiRanklt	自動化とオペレータによる介入を組み合わせた
[Kaneda+, RA-L24]	Human-in-the-Loop設定でのfetchタスク実行
RREx-BoT	事前収集済み画像からの対象物体検索に基づく
[Sigurdsson+, IROS23]	Vision-and-Language Navigation

open-vocabulary mobile manipulationタスク OVMM [Yenamandra+ CoRI 23] SOTA手法でもダスク成功率10%程度











手法: Dual-Mode Multimodal Ranking Model (DM2RM)

マルチモーダル基盤モデルを用いたSwitching機構により、対象物体および配置目標を単一モデルで検索可能

Switching Phrase Encoder:

モードトークンおよび**大規模言語モデル**による表現特定

Task Paraphraser:

結果

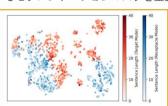
冗長または文法誤りを含む指示文を**標準形**に変換

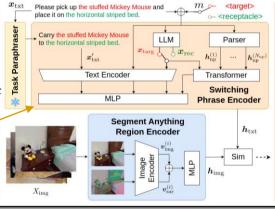
Segment Anything Region Encoder:

SAM [Kirillov+, ICCV23] によるセグメンテーションマスクを重畳

言語特徴量 htxtをt-SNE [Maaten+, JMLR08] により可視化

/ モードごとに クラスタが分離







実験設定:1.大規模屋内環境で収集したデータセット、2.標準家庭環境[Okada+, AR19]における実機実験

1. LTRRIE-FC: HM3D [Ramakrishnan+, NeurIPS21] を基に構築

クラウドソーシングにより

226人のアノテータから物体操作指示文を収集

環境数	画像数	指示文数	平均文長
774	7,148	6,581	15.69



2. ユーザ指示文に基づく画像検索 + 把持・配置動作



HSR [Yamamoto+, ROBOMECH J.19]

YCBオブジェクト [Calli+, RAM15]

実験結果:1. 新規データセットにおいて既存手法を凌駕,2. ゼロショット転移条件でタスク成功率82%を達成

1. 定量的結果: 画像検索タスクにおける標準的な評価指標を採用						
手法	対象物体	配置目標	MRR [%]	Recall@10 [%]		
CLIP [Radford+, ICML21]	✓	✓	10.8	24.9		
MultiRankIt [Kaneda+, RA-L24]	✓		20.5 ± 2.3	48.2 ± 1.4		
		✓	19.8 ± 1.1 +	11.5 49.1 ± 5.9		
DM ² RM(提案手法)	✓	✓	32.0 ± 0.5	67.9 ± 0.8	⊦18	
DM ² RM(提案手法)	✓	✓	32.0 ± 0.5	67.9 ± 0.8		

2. 定性的結果:実機実験における成功例



Receptacle

Target モード



'Can you take the mustard container on the shelf to the black box